

「英和辞典の記述——英文解釈論資料」改訂稿

藤 本 正 文

掲記の紀要報告（『富山医科薬科大学一般教育研究紀要』23号、2000年3月）について、その前半「a. 3英和辞典（等）の記述（153単語242語法）」の部分にたいして大幅の改訂——説明文の字句訂正4箇所、各項目内の字句訂正4箇所、新しい項目の設置11、従来の項目の削除73、項目の肩番号の変更42——を加えることが必要になった。

についてはここに、まず旧報告の「はじめに」（27頁）を再度掲載し（一部の字句を訂正、5、6を削除）、その後に上記の「a. 3英和辞典（等）の記述（153単語242語法）」（28-49頁）に改定を施した形のをあらためて掲載させていただく。なお、同紀要報告の後半「b. 13英和辞典（等）の記述（21単語24語法）」（50-62頁）の部分についても多少の訂正が必要なので、最後にそれらの箇所のことを書き添えておく。

この改訂稿はいわば特異な性質のものであるが、表題に「英文解釈論」と呼んでいるものは本日現在執筆を終え刊行を予定している原稿であって、それは細部に異例の煩雑さを含んでいる。そしてこの原稿はひとたび完成出来たつもりであったものの、その後なお少しでも内容の向上を、と考えて読み直すうちに、加筆、削除、訂正をすべき個所に次々と気付くことになった。そしてそれらの改善を施すことが、そのままことごとくこの旧紀要報告を加筆、削除、訂正する必要につながったのである。

ちなみにこれは旧報告の「はじめに」の5として述べたことであるが、英和辞典にはおりおりに改版が行われる（どの辞書でどの時期になるかは予測できない）。するとその辞書についての調査結果に、有効性はたんに改版の日の前日までのもの、といった限定がつくことになる。よって出来るだけ早く、出来るだけ改版の事態が訪れる前に、得られた調査結果を印刷物として固定化しておきたい、という心理——焦燥感——もあった。結果として旧報告の「はじめに」6の予告にもかかわらず、このたびこの改訂稿を提示することが必要になった。

このような不体裁で不能率な原稿を生むもとなつた旧紀要報告について、一般教育研究紀要編集委員会にたいしてお詫びを申さなければならない。（2001年9月1日）

はじめに——全文

- a 3英和辞典（他）の記述（153単語241語法）——改定後の全文
- b 13英和辞典の記述（21単語24語法）——訂正箇所のみ の摘記

はじめに

- 1 本稿は、筆者が現在、執筆、刊行を予定している英文解釈論、『英文リーディング基本単語の研究——英和辞典からの前進を探る——』（リーベル出版、2001年度内に刊行される予定）のための基礎資料である。本稿における記述は、すべてその書物に照らし合わせて読まれるも

のとなることを前提にしている。

- 2 ≪a 3 辞典 (他) の記述 (153単語241語法) ≫は、同書の「英和辞典について」の節、「3」において言及する調査の記録である。
- 3 ≪b 13辞典の記述 (21単語24語法) ≫は、同書の同節、「2」において言及する調査の記録である。
- 4 本稿はいまこれを、たんにこれのみにて独立した一編として提示しなければならない。その理由は次の3点である。① 内容が調査の結果を無加工のまま記録するものである。② この記録は上記の英文解釈論 (それは英和辞典論ではない) への編入になじまない性質のものである。③ しかしこの記録は、かならずなんらかの形で公開されることが上記の英文解釈論にとって必要不可欠である。

a 3 英和辞典 (他) の記述 (153単語241語法)

序/辞典一覧/a ~ you

序

- 1 ここに3英和辞典とは、「はじめに」に触れた『英文リーディング基本単語の研究』において「資料一覧」にC-1類として挙げる<KNC><ORE><TGE>の3辞典をいう。
- 2 見出し語の肩にある小さな数字は上記『研究』の中で用いる語法の番号である。それぞれの見出し語のもとで、その右に短い字句であらわす語法を問題にしている。本稿のこの報告ではそれぞれの語法について、上記の3辞典および下記する英和辞典、英英辞典に見られた記述——例示文、意味の規定、説明の文言、等——をそのまま転記する。ただし「本文」とあるのは、当該辞典の記述を上記の『研究』の方に転記しているのでこの報告への転記は省略する旨を表わしている。
- 3 上記の「資料一覧」C-2類の<KCL><KDEJ><KGR><SRH>の4英和辞典の取扱い：先のC-1類の3辞典のいずれにも納得のできる (批判の余地のない) ものとしてここに転記をすることのできる記述が見あたらなかった場合にのみ、これらの4辞典を参照することになっている。そしてこれらの4辞典のいずれにもやはりそのような納得すべき性質の記述がなかった場合には、その都度その事情を、上記の『研究』の※欄において報告する。またその場合には、これらの4辞典のことはこの本報告の中では何らの言及をも行なわない、という形をとることとする。
- 4 上記の「資料一覧」C-3類の<ICE><INE><KNE><OCE><SCC><SPE>の6英和辞典、E-4類の<LGM><OAL><WBS>の3英英辞典の取扱い：とくに必要があった場合にのみこれらに触れる。ただしこれらの辞典の検索件数は、C-2

類の4英和辞典にたいするそれと比べてはるかに少ない。

- 5 辞典には改版が行われることがあるが、以下はすべての辞典について、その1999年8月の時点での状態を表わしている。(このupdateの手続きは、上記の『研究』の中の「英和辞典について」で述べている。)
- 6 各項目の末尾に、そこに転記しつつあるものはいかなる性質(内容)の記述であるか、を記す。

辞典一覧

英和辞典、英英辞典の書名、版、それぞれの略号は次のとおり。また略号は、上記の『研究』の「資料一覧」C1類、2類、3類、4類に掲げるものと同じである。

『岩波英和大辞典』中島文雄編(岩波書店、1970、90-18刷)⇒ICE/『岩波新英和辞典(補訂版)』中島文雄、他編(岩波書店、1987、91-補訂6刷)⇒INE/『講談社英和中辞典』川本茂男他編(講談社、1994、95-2刷)⇒KDEJ/『研究社リーダーズ英和辞典(第2版)』松田徳一郎監修(研究社、1999、99-1刷)⇒KGR/『研究社カレッジライトハウス英和辞典(初版)』竹林 滋、他編(研究社、1995、95-2刷)⇒KCL/『研究社新英和中辞典(第6版)』小稲義男、他編(研究社、1994、95-6刷)⇒KNC/『研究社新英和大辞典(第5版)』小稲義男編(研究社、1980、91-22刷)⇒KNE/『旺文社英和中辞典』高橋源次監修(旺文社、1975、91-重刷)⇒OCE/『旺文社ロイヤル英和辞典』宮部菊男、他編(旺文社、1990、91-重刷)⇒ORE/『三省堂カレッジクラウン英和辞典(第2版)』大塚高信、他編(三省堂、1986、91-5刷)⇒SCC/『小学館プログレッシブ英和辞典(第2版)』小西友七、他編(小学館、1987、91-15刷)⇒SPE/『小学館ランダムハウス英和大辞典(第2版)』同辞典第二版編集委員会編(小学館、1994、94-1刷)⇒SRH/『大修館ジーニアス英和辞典(改訂版)』小西友七編大修館書店、1994、95-改訂再版)⇒TGE/Longman Dictionary of Contemporary English, 3rd ed., ed. Della Summers (Longman Group Ltd., 1995)⇒LGM/Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, 5th ed., ed. Jonathan Crowther (Oxford: Oxford Univ. Press, 1995)⇒OAL/Webster's Third New International Dictionary of the English Language, ed. Philip Babcock Gove (G. & C. Merriam-Webster, 1976)⇒WBS

a¹(冠) a + 普通名詞
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
論文などの題名の例

a²(冠) a + 形容詞 + 普通名詞
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
例文

a³ (冠) a + 序数詞 (+ 名詞)

(KNC) -

(ORE) a third reason

(TGE) 本文

例文

a⁴ (冠) 本来の適用対象外の普通名詞

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

a⁹ (冠) a + 固有名詞

(KNC) a Newton ニュートンのような人 (大科学者)

(ORE) a Mozart モーツァルトのような天才音楽家 / a Daniel (ベニスの商人の) ダニエルのような名裁判官 / the mind of a Newton or a Bach ニュートンやバッハのような精神 / a second Machiavelli マキアベリの再来 (ともいうべき人)

(TGE) 本文

挙げられている例 (他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

address (動) 「とりくむ」

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

例文

all¹ (代) 非具体的な人々

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

all² (代) 情緒的な用法

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

用法があることへの言及

all⁷ (形) 情緒的にあたる例文

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) 本文-

例文 (言及)

all¹³ (副) at all

(KNC) 否定文、否定文、条件文。

(ORE) 否定文、疑問文、条件節 (その例文には本文引用のものがある)。(また肯定文もあるが、それは「indeed」の意味の方言である、と。)

(TGE) 否定文、条件節、疑問文、肯定文 (その例文は本文引用のもの)。

SRH: 否定文、疑問文、条件節、肯定文 (Well, I'm happy to see you at all.)

生起する環境の規定

among¹ (前) Among ~₁ be ~₂ 存在をあらわす

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

amount¹ (名) no amount of ~

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

and¹ (接) not と共起する場合

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

例文

another (形) just another ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) 本文

例文

any² (形) 最上級とともに用いる場合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

ICE: He is the most generous man of any.

KGR: He is the best-known of any living novelist. 現存小説家中最も有名だ

例文 (他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

arguably^R (副) 「おそらくは」

(KNC) 本文

(ORE) *Hamlet* is arguably the most popular

and famous play ever written.
(TGE) -
例文

a s¹ (副) as + 形容詞
(KNC) 本文
(ORE) -
(TGE) -
言及

a s⁷ (接) ~₁, as ~₂ 「~₁である。すなわちこのようにして~₂である次第だ」
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
例文

a s¹⁰ (接) as C as S be、余剰な as
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) 本文
言及

a s¹³ (接) Noun (,) as ...ed
(KNC) 本文/-
(ORE) -/-
(TGE) -/-
ICE: -/本文
SCC: Mt. Fuji as seen from Suruga/本文
前が制限的、後が非制限的であるような例。
なお、「限定」「制限」の対象となるものについて、
ICE, INE, KGR の記述は本文のとおり。(他の辞書
については本稿の b の調査を参照)

a s¹⁴ (接) Noun (,) as ~ (～は S V をもつ形式)
(KNC) -
(ORE) 本文
(TGE) -
SCC: (元来の意味は「…のように」であるが、文頭・文尾または途中に挿入されて) …だが；
(文頭に出ている形容詞や分詞の次に挿入された場合は、けっきょく強めのことばとなる)
実際、事実。This is an example of natural selection, as you call it (as it is called) これ
がいわゆる自然選択の一例である (以下は訳文を省略する) As it happened, I had not
money enough with me, but sufficient at home. / While we were talking, as it
happened, our friend George came into the

outer office. / As good luck would have it,
a policeman was passing our house. / He
is quite well, as it appears. / If I had more
experience, I might not mind it so much,
but as it is, I am terrified. / —あまりにも
多いので以下 4 例の転記を省略する。

掲記に該当する例文。なお、<SCC>は、「挿入的に」という範疇のもとでの記述の転記。(他の辞書については本稿の b の調査を参照)

a s¹⁶ (接) S be as ~₁ as S be ~₂ ① 双方が相並んで存在
(KNC) -
(ORE) 本文
(TGE) -
例文

a s¹⁷ (接) S be as ~₁ as (S be) ~₂ ② 双方が相並んで存在、かつ順序が逆転。
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
例文 (言及)

a s¹⁸ (接) S be as 形容詞 as ~、否定のレトリック
ク
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
KDEJ: 本文
例文

a s¹⁹ (接) As ~₁ be to ~₂, ~₃ be to ~₄ / ~₃
be to ~₄ as ~₁ be to ~₂、並行の関係
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) 本文
例文

a s³⁸ (関代) as be S …、as が補語である場合
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

a s⁴⁰ (関代) “~ + as + S V1 … + V2 …”メタ言語的挿入句
(KNC) -
(ORE) -

(TGE) -
例文

barely² (副) 否定的な用法

(KNC) 本文

(ORE) I can barely understand him. 私には彼
(の言うこと) がほとんどわからない / They
barely need a thing. 彼らに必要なものはほ
とんどない

(TGE) a barely furnished room 家具がわずかし
かついている部屋

例文 (他の辞書については本稿の b の調査を参照)

be² (動) 前置詞 ~₁ be ~₂、存在をあらわす

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

be³ (動、助) 形容詞 be ~ / ...ing be ~、存在
をあらわす

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

be⁴ (動一定形) be S ~₁ or ~₂、可能性の列挙

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

ICE: be it true or not.

KGR: Be it true or not.

KNE: be it true or not.

言及 (他の辞書については本稿の b の調査を参照)

be⁵ (動一定形) be that as it may

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

be⁷ (助) S be ...ing、事柄の同一性

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

言及

be⁸ (助) S be ...ed、現在の状態

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

be¹² (助) if S be to do 当人の意図

(KNC) -

(ORE) It's time we moved on if you're to catch
that train. その列車に乗るつもりなら腰を上
げるしおどきだ

(TGE) 本文

言及

be¹³ (助) if S be to do 別の人の意図

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

言及

before¹ (接) ~₁ before ~₂、「~₁ であって、
そしてその後に ~₂ である」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

before³ (前) ~₁ before ~₂ 「~₁ であって、
そしてその後に ~₂ となる」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

best (副) S be best ...ed 「S は...されるのにか
きる

(KNC) That is best refused. それは断るのがいち
ばんいい

(ORE) 本文

(TGE) -

KNE: This is best refused.

SRH: It is best ignored.

言及 (他の辞書については本稿の b の調査を参照)

but¹¹ (関副、関代) ~₁ but ~₂、関係副詞の場
合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

challenging (形) 骨の折れる

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文/a challenging course

例文

choose (動) Noun to choose from

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

言及

combined (動一分詞) 複数的である Noun +
combined

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

come¹⁰ (動一分詞) Noun come ~

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文 (説明)

comparable^R (形) 「それと同等の」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

WBS: 本文

この意味による用例

compared (動一分詞) ~₁, compared to ~₂

(KNC) - / (The earth is only a baby compared
with many other celestial bodies.)

(ORE) - / (They are well off compared with
what they were ten years ago.)

(TGE) - / (-)

WBS: 本文 / (-)

言及。初めに当面問題にする用例、/の次は文の
述部が compared with ~” の ~のところと比較さ
れているような例。(他の辞書については本稿の b
の調査を参照)

concern² (名)

(KNC) 本文

(ORE) 順調に行っている事業 (会社) -

(TGE) 営業中の (通常うまくいっている) 会社
(事業)

意味の説明

conscience^R (名) 善悪の判断力

(KNC) 善悪の観念 / -

(ORE) - / -

(TGE) 本文 / -

本文に述べたような意味規定 / 本文に述べたよ
うな例文

could¹ (助) 仮定法、用法を2つに分けて示す

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

counterpart^R (名) 再言及の手段

(KNC) (The Japanese counterpart of a first-class
railway carriage is a Green Car. 一等車の
日本版はグリーン車である)

(ORE) 本文

(TGE) (The Diet Building in Japan is a
counterpart of the Capitol in the United
States. 日本の国会議事堂はアメリカのキャ
ピトルにあたる)

例文

cover (名) for cover

(KNC) 本文

(ORE) seek cover during a storm

(TGE) The trip was a cover for his smuggling.

例文

credit (名) 悪いことの責任

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

decide (動) 「判断を下す」

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) I decided (that) I was too old to take the
job. その仕事に就くには年がいきすぎている
と判断した (思った)

言及

democracy (名) 民主主義国

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

例文

denial^R (名) a denial that ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

この構文への言及

descending^R (形)

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

determine (動) 「判断を下す」

(KNC) -

(ORE) 本文。また、I checked the body and determined that it was too late for any attempt at resuscitation. 私は死体を点検してみても生き返らせようとするには遅すぎると判断した。(これらが a previously determined action (あらかじめ決定されていた行動方針) と同居。)

(TGE) -

SRH: 「結論を下す。断定する」。(例文なし)

語義への言及とその例文

dozen (名) dozens of ~

(KNC) 口語

(ORE) 口語

(TGE) 略式

スピーチレベルの指定

economy (名) 経済地域

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

enough² (副) enough that S V ..

(KNC) 本文

(ORE) He said so loud enough that all could hear.

(TGE) 本文

例文

even³ (副) even though ~

(すべて本文に記した。)

ever¹ (副) 通時間的

(転記を省略する)

experience (名) 知覚の上を起こること

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) 本文

例文

few¹ (代) 「ほとんどの人が...でない」

(KNC) 否

(ORE) 否

(TGE) 否-

2つの意味範疇の別建て

find¹ (動) 「...である (と思う)」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

意味について説明すること

find² (動) S find oneself in + 場所を表わす
Noun

(KNC) (自分が) ...の状態に(場所に)いるのに気づく/本文

(ORE) 自分の位置(状態)に気づく/-

(TGE) (気がつく)とある場所・状態に)ある、
いる/-

意味の説明/例文

for² (接) ~₁. For ~₂ 独立のセンテンスをつくる

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

言及

for⁴ (前) 「~という結果をえて(ともなって)」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

g i v e n ¹ (形) a given ~ / any given ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

LGM: 本文

g i v e n ² (動一分詞) given ~ 「~が在るのだから」

(KNC) (Given good health, one can achieve any thing. 健康でいられれば)

(ORE) (Given the above assumptions, it is predicted that ... 上述のように仮定すれば ... と予測される / It would be possible, given a little more time, to save your company. もう少し時間があればあなたの会社を救うことは可能でしょう)

(TGE) 本文

LGM: Given the circumstances, you've coped well.

OAL: Given the government's record on unemployment, their chances of winning the election look poor.

WBS: Given the national panickiness..., liberals have to be very careful of the company he keeps.

この形式にたいして与えられている例文。カッコでくくったものは当面の使われ方に該当していない。(他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

g i v e n ³ (動一分詞) given that ~ 「~ という事実が在るのだから」

(KNC) (Given (that) one is in good health, one can achieve anything. (健康でいられれば)

(ORE) (Given a = b (a = b ナラバ) / Given that all men are equal (すべての人が平等だとすれば)

(TGE) 本文

SPE: 本文

SRH: 本文

この形式にたいして与えられている例文。カッコ内のものは当面の使われ方に該当していない。(他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

g o n e (動一分詞) Noun gone ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

g r a n t e d (動一分詞) Granted, ~₁. But ~₂

(KNC) Granted that what you say is true, it's no excuse. 仮に君の言うことが本当だとしても、それは言い訳にはならない

(ORE) Granted that you are right ... 仮に君が正しいとしても...

(TGE) 本文

例文

h a d ¹ (助) had ...ed 前過去

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

h a d ² (助) had S₁ ...ed

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及 (例文)

h a l f (副) half again as much / half as much again

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

例文

h a v e ⁷ (動) have O ...ed 受動の状態の持続

(KNC) They had a chart spread (out) on the table. 海図をテーブルの上に広げていた

(ORE) 本文

(TGE) -

これに該当する例文 (他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

h e l p ¹ (動) 「悪いことを助長する」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KGR: help one's ruin. 滅亡を早める

例文

h e l p l e s s (形) / ~ l y (副) 「(自分では) どうにもならない / ならなくて」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KDEJ: 本文

副詞の場合の例文

her/he (代) 同一の人称代名詞、異なる指示対象

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

hopefully (副) 「願わくば」

(KNC) -
(ORE) 本文
(TGE) Hopefully today would be a better day.
例文

if¹ (接) Noun if ~

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

if⁴ (接) ~₁, if only because ~₂

(KNC) 本文 (-)
(ORE) - (... という理由からだけでも)
(TGE) - (-)
INE: - (... という理由からだけでも)
例文 (カッコ内は意味の説明) (他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

if¹⁰ (接) if at all

(KNC) 本文
(ORE) -
(TGE) -
言及

in¹ (副) 動詞 + in on ~

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
in の語のもとでの記載

in³ (前) 金額 + in ~

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
例文 (他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

inasmuch^R (接) inasmuch as S V .. / in
as much as S V ..

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
SRH: 本文
例文

include (動) 全部のものの場合

(KNC) (全体の一部として) 含む / -
(ORE) (部分・要素として) ... を含む / -
(TGE) <人・物・事が> <人・物・事> を (全体
の中の一部として) 含む / -
最初が語義の説明、次が当面の用例と同じ意味に
なる例文。

increasingly (副) 「いよいよ・ますます」

(KNC) 本文
(ORE) become increasingly sleepy
(TGE) become increasingly difficult
KCL: It is becoming increasingly difficult to
live within my income.
SRH: As Beethoven grew older, it became
increasingly difficult for him to hear.
例文を転記しておく。(KDEJ、KGR には例文が
ない。)

into² (前) 基数詞 ~₁ into ~₂ 「~₁ だけ入っ
たところで」

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
例文

involve^{R-2} (動) 「内容の一部としてもつ・付
帯事項としてもつ」

(KNC) 第一義「巻き込む」(太字) / 第二義「含む」
(太字なし)
(ORE) 第一義「巻き込む」(太字) / 第二義「伴う」
(太字)
(TGE) 第一義「巻き込む」(太字) / 第二義「含む」
(太字なし)
意味の表わし方

know¹ (動) 「思慮分別がある」

(KNC) 本文
(ORE) I know better than to give tongue to
this question.
(TGE) You should have known better (than to
do such things).
例文 (3 辞書とも成句としての取り扱いである。)

late² (形)「故人」

(KNC) my late father 亡父 / the late Mr. Brown
故ブラウン氏

(ORE) -

(TGE) the late president 前大統領 / her late
(lamented) husband 彼女の亡夫

例文

later (副) 基数 ~ later

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

KGR: 本文

例文

London (名) 国家

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

many¹ (代) 非具体的な用法

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KGR: 本文

これに該当する例文

mixed (形)

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

ニュアンスの点の説明

more⁴ (副) the more + 形容詞 + Noun, 絶対
比較級

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及 (なお、見出し語 the のもとでも事情も上記
と同じ)

much¹ (代) much of a Noun

(KNC) -/-

(ORE) so, tooなどを伴って / Hamlet is too much
of a thinker.

(TGE) 本文 / 本文

too much of a ~ の用法の説明 / その例文

nearly² (副)「おおむね」、肯定的

(KNC) 第一の b. の区分 I was nearly run over by
a car. ∴ 第一の a. の区分 It is nearly half

past six. / We are nearly at the top of the
hill. ほか

(ORE) 第一区分 He very nearly married her. /
She was nearly as rich as himself. ほか。

(TGE) 第一区分 He very nearly fell into the
pond. / nearly always ほか

KCL: 第二区分 Oh, I nearly forgot. / We nearly
missed the bus. ∴ 第一区分 It is nearly nine

o'clock. / It is nearly time to go to bed. ほか。

KNE: 第一区分の b. She nearly fell into the
river. / ∴ 第一区分の a. It is nearly time to

go. / The letter is nearly finished. ほか。

SCC: 第二区分 I nearly missed the bus. / She
was nearly drowned. / escape nearly ほか

/ ∴ 第一区分 The new house is nearly

finished. / It's nearly time to go. ほか。

前項目 (nearly¹) のことも合わせて記す。∴ の前
に否定的な意味のための意味区分と例文、∴ の後

に肯定的な意味のための意味区分と例文を記す。
∴ が不在辞書ではこの区分分けが行われていない。
(他の辞書については本稿の b の調査を参照)

of⁵ (前) ~₁ be of ~₂、材料 / 目的格属格

(KNC) -/-

(ORE) -/-

(TGE) -/-

SRH: 本文 / -

言及

of⁶ (前) ~ の中であって

(KNC) 本文 (成句として)

(ORE) here of all places

(TGE) of all things

例示

one⁷ (代)「その一つの例」

(KNC) 既出の可算名詞の反復を避けて、(その)
一つ、それ

(ORE) 先行する可算名詞句の一例

(TGE) a (an) + 名詞の代用で、非特定または総称
の人・物を指す

INE: 前出名詞との反復をさけて

KDEJ: 同一名詞の反復を避けるために a + 普通名
詞の代わりに用いて、それと同類の者 (物)

KGR: 可算名詞の反復を避けるために用いて、同

類のもの

KNE: 既出の countable の名詞の反復を避けてこの用法が属する意味範疇の規定の仕方。下線は引用者。(他の辞書については本稿の b の調査を参照)

only¹ (副) only の位置の問題

(KNC) — (only が動詞の傍にある文が、そうではない文と同じ意味である旨の説明がある — 引用者)。

(ORE) 論文などの改まった文体では、...only は限定する語句の直前に置かれる傾向が比較的強い。しかし口語的な文体では、...の位置にすることが非常に多く、話し言葉では音調によって意味があいまいになるのを防いでいる。

(TGE) only は通常修飾する語・句・節の直前か、時に直後におく。略式では動詞の直前 (be 動詞、助動詞はその後) に置かれる傾向にあり、only に修飾される語は強く発音される。

ICE: 「動詞を限定。He can only guess (guess only). 主語を限定。Only you (You only) can guess ... しかし only は動詞と結合していても他の部分を限定することがある」

INE: 「only の位置により意味が異なることがある。Only you (you only) can guess. は主語を限定、You can only guess (guess only) は動詞を限定」

KNE: 「ただし... (例示 — 引用者) と云うべきところに、only を述語動詞の前に置いて... (例示 — 引用者) という傾向もある」

OCE: 「文を修飾する場合は動詞の前に置かれることが多い。一般には only を動詞の前に置く傾向が強く、また特に強調する場合を除いては副詞 only が文頭に来ることは少ない」

SRH: 「とくに形式張った書き言葉では、修飾する語句の直前に置かれることが多い。...しかし only が最も多く置かれる位置は、(本) 動詞の直前であり、話し言葉では強勢によって文意を明らかにし、一般に強く発音される語句が修飾される要素であることになる」

説明の転記 (他の辞書については本稿の b の調査を参照)

otherwise (副) 「それ以外の点では」、名詞句内の小部分としての用例

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KGR: 本文

例文

paid (動一分詞) S be paid for 「S に、その代価が支払われる」

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

payable (形) 支払うべき

(KNC) 本文

(ORE) payable to bearer

(TGE) -

OAL: 本文

KCL: 本文

例文

place² (名) in the first place

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

言及

plausible^R (形) 「妥当と思われる」

(KNC) -

(ORE) 信頼できそうな

(TGE) (話、議論などが) 妥当な -

KDEJ: (説明が) 穏当な

SRH: もっともらしい (かならずしも悪い含みはない)

説明

powers (名) 当局

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

例文

put (動一分詞) put, S V ...

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

quote (動) S be quoted as ...ing ~

(KNC) 本文 / <新聞などでよく用いられる>

(ORE) He was quoted as saying that... 彼は...と述べていると伝えられた / <->

(TGE) He is quoted as having said that... 彼は...
と言ったといわれている /<->

ICE: -

KGR: -

KNE: -

SRH: -

/の前は例文、後は説明

relative (名) 親族

(KNC) 親類 (の人)、親戚 (の人) / 本文: He's a
close (distant) relative of mine.

(ORE) 親類、親戚、姻戚、縁者 / 本文

(TGE) 親族、身内。家族や結婚による縁者を含む
/ 本文

/の前は意味の規定、後は例文

relevant / irrelevant^R (形) 「重要
性・有意義性がある / ない」

(KNC) 本文 / His remarks are irrelevant to the
subject under discussion.

(ORE) a confidential matter relevant to the
case / irrelevant to our argument

(TGE) Your question is not relevant to the
subject. / -

LGM: These issues are directly relevant to the
needs of slow learners. / 本文

relevant / irrelevant の例文

rest (名) the rest of ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

said (動一分詞) 「そうは言うものの」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

言及

say¹ (動) what S have to say

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

should⁴ (助) S₂ V ... should S₁ do

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

should^S (助) that S do

(KNC) 口語では should を用いないことが多い。

(ORE) <米>語では should を用いず、原形動詞
(仮定法現在) だけであるのがふつう。<英>
でもこの傾向が広く見られる。

(TGE) - (例文のみ)

上は説明文の転記

so³ (副) So it be that ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KDEJ: 本文

例文

someone (代) 「者 (人)」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KDEJ: 本文

例文 (言及)

something¹ (代) 「物」

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文 (言及)

spoken (動一分詞) S be spoken of as ~

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

言及

state (名) "the state of the art"

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

supposed³ (動一分詞) be supposed to do

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

technically (副)「規則(条文)通りにいうと」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

例文

terms² (名) in terms of 動名詞...

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

than⁹ (関代) ~ than V ..

(KNC) Her services are more valuable than was supposed. 彼女の尽力は想像していたより貴重なものである。

(ORE) It has caused greater changes than had occurred since 2,000 B.C. それは紀元前2000年以降に起きた大変化よりも大きな変化をひき起こした

(TGE) We have more apples than could be eaten in a day. 1日では食べきれないほどのリンゴがある

SCC: There is more in life than meet the eye.

人生には目にみえる以上のものがある

言及、例文(他の辞書については本稿の**b**の調査を参照)

that³ (代) that is

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

that²³ (関代) Noun that S be 関係代名詞のthatが続く“S be”にとっての補語

(KNC) a. 主語として b. 補語として c. 他動詞、前置詞の目的語として

(ORE) 1. 主語 2. 目的語・補語

(TGE) 1. 主格・目的格

KCL: 1. 主語となる 2. 他動詞の目的語となる 3. 前置詞の目的語となる 4. 補語となる

以上は、意味区分の立て方。

ICE: <記述名詞・記述形容詞を先行詞とする挿入句的感嘆節で> Fool that he is! / <= who, whom, which> Fool that he is! (同じ例文が二度のっている)

INE: <記述名詞・記述形容詞を先行詞とする挿入句的感嘆節で> Fool that he is!

SPE: <関係代名詞の先行詞が補語になっている場合> Fool that I am!

以上は、本文で言及した例文。(他の辞書については本稿の**b**の調査を参照)

that²⁴ (関代) Noun1 that be Noun₂ (Noun₂は固有名詞)

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及(他の辞書については本稿の**b**の調査を参照)

that²⁵ (関代) 二重限定の関係詞構文

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

that²⁷ / which¹ / who² (関代) Noun that + S V₁ .. + V₂ .. / Noun which + S V₁ .. + V₂ .. / Noun who + S V₁ .. + V₂ ..

(KNC) that: -

which: -

who: -

(ORE) that: 本文

which: -「-」

who: -

(TGE) that: -

which: 本文

who: 本文

言及(例文)

that^{S-6} (関代) Noun + there be, 「存在しているところの、Noun」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) 本文

省略を示す例文

that^{S-10} (which^{S-2} / who^{S-2}) (関代) Noun + S V₁ .. + V₂ .., 挿入節を含んだ関係代名詞節からの関係代名詞の省略

KNC: that: -「-」

which: -「-」

who: -「主格の関係代名詞は省略をしないのが原則だが、there is... などの後

では省略されることがある」

ORE) that: 本文／「関係詞省略：主語の場合には there is (are) の後や it ... that の場合以外省略しない」

which: -／「-」

who: -／「ふつうは省略不可であるが、there is ... 構文などでは [口] で省略することもある」

(TGE) that: -／「There is で始まる文では主格でも省略可能」

which: 本文／「主格であっても挿入句前の which が省略されることがある」

who: 本文／「略式では There is (was) ... や強調構文の It is(was) ... の後では省略されることがある。／挿入句の前の who が省略れることがある」

SRH: 本文

初めに、当面の形式の例文。次に、主格関係代名詞のこれ以外の場合を含むあらゆる場合での省略に関する説明の文言。(他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

the² (冠) 呼び替えのある場合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

the⁴ (冠) 社会的、世間的な根拠

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

the⁶ (冠) 小説の書き出し

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

the¹⁰ (冠) the + 国民名、国際社会の単位として

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

この形式の、この意味に当たる用例 (他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

the¹¹ (冠) the + 家名、個人名入りの場合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

用例

there² (副) for there to be C, “to be” が副詞的

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

third (名) 分数

(KNC) One (a) third of the senators are elected every two years. / -

(ORE) a third of Italy's consumption of sheet glass / fold a robe in thirds

(TGE) 本文 / two thirds

SRH: one third of the total / 本文

例文。 / よりも後のところは、分子が2以上のときのもの

this¹ (形) this + 人の立場をあらわす Noun

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

言及

those³ (代) those of us ~ など

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及 (例文)

time (名) some of the time など

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

当面の形式のもとでの例

to⁴ (前) “~₁(,) to ~₂” 対比、追叙的な場合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

to⁶ (前) S be 形容詞 Noun to do 「Sは…するの

には…であるような Noun だ」
(KNC) -
(ORE) -
(TGE) 本文
言及

t o⁸ (前) S V..., to do, 「S V...である。そして
やがて、…する」

(KNC) <結果>
(ORE) <結果>
(TGE) <結果>
所属する意味範疇

t o¹¹ (前) To do, S V... 「次は…する (do) こと
に当たるのであるが、すなわち S V...である」

(KNC) -
(ORE) 本文
(TGE) -
言及

t o^S (前) 「to 不定詞」における省略

(KNC) - / 本文
(ORE) - / All he could do was (to) repeat it.
(TGE) - / -
比較表現の場合の例示 / 補語の場合の例示

t o o⁴ (副) not + too ~ > 緩叙法

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
この用法についての説明

t u r n (名) in turn

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) 本文
言及 (例文)

t u r n e d (動一分詞) Noun₁ turned Noun₂

(KNC) -
(ORE) 本文
(TGE) Sally Quinn is a reporter-turned-novelist.
サリー＝クインは新聞記者から小説家となった

KLC: 本文

LGM: actor turned politician / football player
turned author [someone who has done one
job and then does something completely
different.

OAL: He's a lawyer turned politician (He was
formerly a lawyer but is now a politician.

WBS: Wartime diary of a journalist turned
lieutenant commander. / Walls rise sheer
around the courtyard turned theater.

例文とその訳文 (他の辞書については本稿の b の
調査を参照)

w a y⁵ (名) the way ~ 「~から判断すると」(判
断者の明示がない)。

(KNC) 本文
(ORE) He seemed uneasy the way he stood
there.

(TGE) -

KDEJ: The way they proposed the problem, we
can assume that none of them are thinking
of changing their mind.

SRH: John must be in love with Judy, the way
he talks about her.

当面の用法の例文 (他の辞書については本稿の b
の調査を参照)

w a y⁶ (名) the other way around

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
KDEJ: 本文
例文

w e l l² (副) ~₁ as well as ~₂ 二つの事柄の単
なる並列

(KNC) 本文
(ORE) -
(TGE) -
KGR: 本文
例文

w h a t¹ (代) what S be (all) about

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
SRH: 本文

all を伴わない場合への言及

w h a t⁸ (関代) 「これこれであるところのもの」

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

where⁴ (関副) It be 前置詞句 where ~ 「～である場所は、Cである」

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

whichever (関形) whichever Noun ~ 「～であるような Noun はどれでも」

(KNC) <疑問形容詞> 本文
(ORE) <関係詞> Please take whichever (one) you like. どちら (どれでも欲しいのをお取りなさい)
(TGE) <関係代名詞; 形容詞的用法> Take whichever (one [ones]) you want. 欲しいものをどれ (どちら) でもお取りなさい

whole¹ (形) whole ~、個々においてそれぞれその全体

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

whole² (形) whole ~、情緒的な用法

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
SRH: 本文
例文

whose (関代) Noun₁, whose Noun₂ it be to do

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

with^{S-1} (前) S V .., Noun ...ing

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) 本文
例文

with^{S-3} (前) S V .., Noun₁ Noun₂

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
例文

with^{S-4} (前) S V .., Noun + 形容詞相当語句

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
例文

without (前) "S V .., without ~ ...ing" / "S V .., without ~ ...ed"

(KNC) -
(ORE) 本文
(TGE) -
「付帯条件」としての例文

would¹ (助) 純粋な、過去から見た未来

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
KGR: 本文
例文

would² (助) 「単なる仮定」の説明

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
説明

would³ (助) 文内の条件節以外の表現が現実
に反する仮定の条件を提示する

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
KCL: 本文
例文

yet⁴ (副) "S be yet to do"

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
説明

you¹ (代) 1人称複数者、3人称複数者をさす

(KNC) -
(ORE) -
(TGE) -
言及

you² (代) 総称的 (實際上1人称単数者、3人称単数者)

(KNC) -

(ORE) -
(TGE) -

KDEJ: 本文
例文 (他の辞書については本稿の **b** の調査を参照)

b 13英和辞典 (他) の記述 (21単語24語法)

「英和辞典の記述——英文解釈論資料」(『富山医科薬科大学一般教育研究紀要』23号、2000年3月)の中の、下記の個所を訂正する。

5頁 in₃ (前) ⇒ in₄ (前)

56頁 than₅ (関代) ⇒ than₉ (関代)

57頁 that^{K-11} (which^{K-1}/who^{K-1}) (関代) ⇒ that^{S-10} (which^{S-2}/who^{S-2})

59頁 way₆ (名) ⇒ that^{S-14} (関副)

61頁下から5行目 に属していたに他ならない。⇒ に属していたからに他ならない。

62頁 (一覧表の中)

in₃ ⇒ in₄

than₅ ⇒ than₉

than^{K-11} ⇒ that^{S-10}

way₆ ⇒ that^{S-14}

また、すべてのKEJとあるところを KDEJ と読み替える。